



新年 明けましておめでとうございます。

今年は、去年の、橿原でのインターハイに続いて、全国的な大会として、平城遷都1300年祭にちなんで、平城宮跡で全国遠的選手権大会が行われます。奈良県弓道連盟としても主管として、運営に協力していかなければなりません。会員の皆さん方のご協力をお願いいたします。



また、全弓連では、財団法人の公益化にむけて、準備が進められているところであります。これに対する準備も進めていかなければなりません。

さらに、県連としては、スポーツ指導員の養成も急務となっています。今年度は、そのための講習会を企画し、称号者はもちろん、支部・団体の指導者にも、積極的にこの資格を取っていただきたいと思っています。

私事ですが、この大事な時期に、病気で休んで、迷惑をおかけしております。経過は順調で、2月半ばには放射線療法も終わり、春には復帰できるかと思っております。

今年一年よろしくお願いいたします。

奈良県弓道連盟 会長 吉本清信

■ 大和神社 御弓始祭



に秀でた同地の倭族が神事として2,000年以上と云われています。

現在の形になったのは、昭和27～8年頃からで、弓道連盟が協力して、弓馬術礼法小笠原流による大的式が行われています。

厳しい寒さのなか、晴天に恵まれた新春1月4日に天理市の大和（おおやまと）神社で行われました。

この行事の始まりは、神社によると武芸

本年は武家の弓始めとして行われていた三三九手挟式を色鮮やかな水干、直垂の鎌倉衣装を纏い執行しました。

行事は、最初に墓目鏝で魔性を退散させ、その後、宮司、氏子総代、市立天理南中学校の弓道部員が大的に向かい矢を射ました。続いて弓道連盟員の射手、前弓女子6名、後弓男子6名がそれぞれ8寸角、9寸角の板的を狙い神頭矢でもって射放し、的中すると参拝者から大



きな拍手があがりました。

この三三九手挟式には厳格な作法があり、この日のために出場者はそれぞれ練習を重ねてきましたが、いざ本番になると足さばきや作法に気がとられ、的中はいまひとつでした。唯一前弓の1番、香芝の吉岡瑞紀さんが皆中し盛大な拍手を受けておりました。

この行事に天理南中学校の生徒さんが参加すると云うことは大変有意義なことで、地域の祭りに参加し、また、弓のもつ古代から引き継がれてきた伝統的な意義や意味を知るきっかけとして大切な機会になると思われまます。今後は是非とも続けて欲しいと願うところです。



(新司 正人)

◆第5回 近畿中学生弓道大会

日時 平成21年12月19日(日)
主催 近畿地域弓道連合会
会場 大阪城弓道場
種目・種別 男女近的 団体戦及び個人戦

男子団体の部

優勝 香芝中A(奈良県) 竹岡・倉角・村岡
2位 六甲中A(兵庫県) 戸田・濱坂・椿
3位 八木中A(奈良県) 福岡・高井・杉井

女子団体の部

優勝 甲南女子中A(兵庫県) 島田・吉田・山内
2位 香芝中A(奈良県) 前田・大崎・葛井
3位 橿原中C(奈良県) 西村・中島・松田

男子個人の部

優勝 福岡 良剛(奈良県・八木中学校)
2位 中谷 晋也(奈良県・白橿中学校)
3位 日下 雅仁(兵庫県・甲南中学校)

女子個人の部

優勝 伊達 麻佑子(兵庫県・甲南女子中学校)
2位 吉田 沙織(兵庫県・甲南女子中学校)
3位 平松 麻奈(奈良県・橿原中学校)

(報告: 嶋田)

◆平成22年 新年射初会

《支部・地区対抗戦》(支部・地区上位10名の中数)

1位: 奈良支部(27中)
2位: 橿原支部(24中)
3位: 郡山支部(16中)

《支部チームトーナメント戦》



優勝:

奈良支部チーム: 山口亮二、矢野有吾、蔵地隆文、
吉井大地

準優勝:

天理大学チーム: 石橋雅大、新田彬、溝島卓、
吉田誠宏

3位:

県立医大チーム: 前畑亜衣、由良有佳里、平田一記、
白木彰彦

蒼穹会チーム: 乾光孝、吉岡瑞紀、寺口瑠、藤岡順

◆第14回 布目108中射会

吉本先生が岩手に居られる時、かの地で年末に行われていた年越しの行事を、この布目弓道場にも取り入れて始まったのが108中射会で、今回で14回目を迎えた。病気療養中の吉本先生も治療の合間を縫って参加され、昨年の大晦日に山添村の布目弓道場英明館で行われた。



天候は晴れであったが午前中の外は強い寒風が吹き荒れ、それでも道場内は暖かく快適な環境の中、15名の参加者が集まった。矢振り立ち順を決め、定刻を待たず9時45分に平木さんの1手行射で始まった。淡々と進んだ射も91中目からは1本づつの行射となり、除夜の鐘に因んだ108中目は14時10分315射目であった。開始から4時間25分の初めは静かに、終盤は和やかな熱戦が終わった瞬間であった。各賞は次のとおり。

108中賞 吉本清巳さんが初めて獲得

107中目(アシスト賞) 藤原さん

88中目(末広がり賞) 中島さん

54中目(ハーフ賞) 横沼さん

最多的中は14中で米国人の武宮さんでした。

終了後はいつものように年越しそばとおでんなどで歓談し、そのあと道場内外や安土の掃除・整備を行い、正月を迎える準備を完了してお開きとなった。

(松井 成之)